



救急車が来るまでに できる!! 応急手当

秋は天候も安定し、行楽やレジャーにとてもよい季節です。市内でも各地で、運動会やお祭りなど楽しい行事がたくさん行われます。そこで注意したいのが突然の病気やけが…。今回は、そんなときに、家庭でもできる応急手当を紹介します。

応急手当って何?

私たちは、いつどこで、突然のけがや病気に襲われるか分かりません。そんなときに、家庭などでできる手当のことを「応急手当」と言います。

応急手当には、①呼吸や心臓が止まったとき(心肺停止)の対応と②出血やけが、熱傷など、心肺停止以外の対応があり、②を「ファーストエイド」と呼びます。ファーストエイドとは、急な病気やけがをした人を助けるためにとる最初の行動のことで、いのちを守り、苦痛をやわらげ、けがや病気の悪化を防ぎ、回復を目指すことを目的としています。

定期的に講習会を実施!

市消防本部では、応急手当の講習会を定期的の実施しています。市民の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。



消防課救急係
☎62・0119

Q 出血したらどうしたらいいの?

A 出血している部位を「直接圧迫」します

●清潔なハンカチ・ガーゼなどを重ねて傷口に当て、その上から、出血部位を指先や手のひらで強く圧迫します。

●大きな血管からの出血の場合、片手で圧迫しても血が止まらないときは、両手で体重を乗せながら圧迫します。

●感染防止のため血液に直接触れないように、できるだけゴム手袋などを使用します。ビニール袋(レジ袋)などで代用することもできます。

準備物：きれいなハンカチ
ガーゼ
ゴム手袋
ビニール袋



▲ビニール袋を使用



▲ゴム手袋を使用

Q やけどしたらどうしたらいいの?

A すぐに冷たい水で「冷却」します

●すぐに水道水などのきれいな流水で、痛みがなくなるまで冷やします。

●衣類を着ている場合は、衣類ごと冷やします。

●水ぶくれは破らなうください。

●冷やしすぎには注意してください。



Q 骨折したときはどうしたらいいの?

A 患部を動かさないように「固定」します

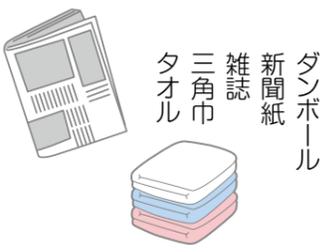
●ねんざや骨折の疑いがある場合は、患部を動かさないのが鉄則です。

●骨折が疑われる部位(痛みがある部位)に上下の関節が固定できる長さの添え木・段ボール・重ねた新聞紙や雑誌等を当てます。

●固定するときは、痛みがある部位を外してタオルや三角巾で上下の関節を固定します。

●骨が飛び出していたり、変形したりしている場合は無理に戻してはいけません。

準備物：添え木
ダンボール



▲添え木を使った固定



▲新聞紙を使った固定



▲ダンボールを使った固定
(●数字は固定する順番)
※★印は骨折部位



救急



市消防本部 救急救命士 平井 孝直

秋は「ハチ」にご用心!

秋になると、ハイキングや屋外のスポーツイベントなどでハチに刺されたという話を耳にします。ハチに刺されると、その部位に痛みやかゆみ、腫れなどの症状が現れ、数日程度で治るといのが一般的です。

しかし、過去にハチに刺された経験がある人や、一度に多数のハチに刺された場合などは、じんましん・嘔吐・浮腫・呼吸困難など、「アナフィラキシー」といわれる全身症状を引き起こす可能性があります。症状がさらに悪化すると、意識障害・急な血圧低下による「アナフィラキシーショック」に陥り、死に至るケースもあります。

ハチ毒のアナフィラキシーショックは、反応時間が早いのが特徴で、ハチに刺されてから約15分〜20分の短時間に症状が現れるとされています。少しでも体に異変を感じたら、直ちに最寄りの医療機関を受診し、医師による適切な処置・治療を受けてください。



いのちをつなぐ救マーク事業所 市消防本部では100事業所の認定を目指しています!